

立地基本協定締結から40年 ～地域とともに～

1985年4月18日、青森県ならびに六ヶ所村と、当社の前身である日本原燃サービス、日本原燃産業が「原子燃料サイクル施設の立地への協力に関する基本協定」を締結してから40年を迎えました。

①理解活動



六ヶ所村全戸訪問(1984年～)

六ヶ所村内の皆さまのご自宅を毎年訪問し、社員が日頃の感謝や当社事業の状況を直接お伝えするとともに、ご意見をいただき、当社の活動に反映しています。



新入社員農業体験(2019年～)

新入社員が農作業の大変さを知り、地域の皆さまと触れ合うことにより、地域の一員としての自覚を醸成しています。



一人ひとりが広報マン(2019年～)

社員一人ひとりが地域の皆さまから信頼される立ち居振る舞いを行い、日頃から地域の皆さまに「さすが日本原燃の社員」と言っていたり、行動を心掛けてもらっています。



げんねん地域大使(2020年～)

六ヶ所村で生まれ育った社員やスポーツ・文化活動で交流している社員が、地域の皆さまの声を聴き、当社の状況を自らの言葉で発信したり、要望や懸念を社内に共有する「地域と当社の架け橋」としての役割を担っています。

②地域振興



青森県産品の販売促進(2006年～)

電力会社の社員へ県産品を紹介し、ご購入いただく「あおもり旬紀行」や、六ヶ所村と隣接市町村の地域ブランド「六景楽市」の運営に協力しています。



保全業務見学会(2022年～)

意欲のある地元企業の参入促進のため、再処理工場の保全業務をご覧いただき、技術習得が必要な場合は、当社施設を活用した教育・訓練の実施や人材育成等の支援を行っています。

③次世代教育



ジュニアロボットコンテスト(2000年～)

青森県内の小中学生に科学や物づくりへの関心を高めていただくために、これまで計26回開催し、延べ5,300人に参加いただいています。



放射線出前授業(2006年～)

青森県内の小中高大学生を対象に、実験を通じて「科学する心」を育てることを目的に行っており、これまで延べ約500回、延べ32,000人に参加いただいています。

六ヶ所村に立地が決まった翌年(1986年)に入社した青森県内出身社員

地域・広報本部



はしもとはるひこ
橋本 春彦
(六ヶ所村出身)

入社当時、六ヶ所村内で立地に関して賛成と反対で意見が分かれていました。

地域の皆さまにご理解いただくため、村内全戸訪問で説明したり、東海村の再処理工場や全国の原子力関連施設をご案内しました。

現在は、地域イベントや青森県産品の販売促進を地域の皆さまと一緒に取り組んでおり、共存共栄できていると実感しています。

再処理事業部



てんま としのり
天間 敏儀
(七戸町出身)

現在、再処理工場の施設が立ち並んでいる場所では、入社当時、樹木の伐採や敷地造成工事が行われていました。

東海再処理工場などで基礎知識を習得し、仏国のラ・アーク再処理工場では実機の運転を経験し、ノウハウを習得しました。

アクティブ試験などの試運転では、多くのトラブルを克服し、円滑な運転経験を重ね、自信に繋がっています。

濃縮事業部



さとう まちる
佐藤 守
(十和田市出身)

ウラン濃縮事業に携わって早くも40年となりました。当時、旧・動力炉核燃料開発事業団や電力会社から出向された方々とウラン濃縮工場の建設、立ち上げと日々変わる現場で仕事に励んできました。

現在、日本のエネルギー安全保障に貢献するという強い想いを持ったプロパー社員が中心となり、工場の運転を行っています。これからも安全を最優先に事業を進めてまいります。

埋設事業部



きむら まさひこ
木村 将彦
(六ヶ所村出身)

入社当時、地元企業で働けることを両親と祖父母が喜んでくれました。この約40年、施設の設計・安全協定・新規規制基準など事業の屋台骨に係る業務に取り組んできました。

地元倉内地区の収獲祭において、当社ブースが子供達で賑わっているのを見ると、いつまでも地域に寄り添い信頼される会社になりたいと思います。

当社施設を受け入れていただき、長年にわたってご理解とご協力をいただいている青森県ならびに六ヶ所村をはじめ、地域の皆さまに心より感謝申し上げます。